



イソアワモチ（写真左）とドロアワモチ（写真右）

大きさ：8cm ほど。

干潟には、いろいろな種類の貝の仲間がすんでいるが、写真の生き物も貝の仲間である。貝といっても、殻の無い貝である。体の左側の方に、2本の突起があるが、それが目であり、物を見る機能を有している。背中にも、突起があり、背眼と呼ばれている。こちらは明るさを感じる程度の機能があるらしい。背中に眼がある生き物というのもおもしろい。このセンサーによって、危険をすぐさま感じ取って、岩に開いている穴に隠れてしまう。イソアワモチは、岩場環境でよく見られ、ドロアワモチはその名の通り、泥的環境で見られる。

沖縄県内のある地域では、写真左のイソアワモチを、たわし等でよく洗ってから、刻んで、味噌炒めして食べるところもあり、私も食べたことがあるが、少々苦いが、ほのかな磯の香りもして美味しかった。

陸のナメクジ、海のアワモチという対比であろうか。